

# かたがねが自慢 子ども新聞

区 地 岡 笠  
会 区 づ ち  
文 化 部  
協 議 文

## 生きているカブトガニ(その一)

### カブトガニは生きています

七月五日カブトガニ博物館でカブトガニの子どもをはじめて見た。思っていたより小さくてかわいかった。ぼくが見た大人のカブトガニは、甲(こう)がとてもしっかりと、えらは一五〇〇枚(まい)くらいで、足は大きいのと小さいのを合わせると十二本もある。尾(お)はかたくてモリみたいで、ぎざぎざがいっぱいあって、ささるといたくてぬげそうにない。

カブトガニは、飼(か)うのがとてもむずかしいといわれている。なぜかというと、カブトガニは、だつ皮(ひ)が大変(とら)で途中で死んでしまうからだ。自然(じぜん)では、二万個(にまんこ)の卵(たまご)のうち、だいたい四匹(よっぴ)ぐらいしか大人(おとな)になれないと、博物館(はくぶくわん)で教(おし)えてもらった。調べてわかつ



大人のカブトガニ

たことは、むかし、むかし、大(お)むかしは、ダンゴ虫(むし)みたいで三葉虫(さんようちゅう)といわれていた。カニ(かに)のなかまではなく、クモ(こも)のなかま(な)だ。



三葉虫

### 大変！カブトガニがへっている

(二年 森兼 慧)

カブトガニがいなくなった原因(げんいん)の一つ(ひとつ)目は、昭和(しやうわ)の笠岡湾(かさおかわ)大干拓(おほひらたく)でたくさん(た)の広い海(うみ)が陸地(りくち)に変(か)えられたこと(こと)だ。東京ドーム(とうきょうドーム)が三八〇個(さんぱちやくこ)入(い)る広(ひろ)さだ。そのため(ため)に、約(やく)十(じゅう)万(まん)匹(び)が死(し)んだ(んだ)と言(い)われてい(い)る。そして、カブトガニ(かに)の住(す)む所(ところ)がなくな(なくな)った。今(いま)では、神島水道(かみしますいどう)から大島(おほしま)の夏目海岸(なつめかいぎん)に、少(すく)ししか住(す)んでい(い)ない(ない)そう(そう)だ。二(に)つ目(め)は、僕(ぼく)達(たち)の家(いえ)で使(つか)うてんぶら油(あぶら)やシャンプー(シャンプー)・洗濯(せんたく)の水(みづ)な生活(せいかつ)用水(ようすい)が、へどろ(へどろ)をた(た)くさん(さん)作(つく)って海(うみ)をよ(よ)こしてき(き)た(た)こと(こと)だ。

三(さん)つ目(め)は、割(わ)れたビン(びん)やカン(かん)がある(ある)こと(こと)の中に(な)にもぐれ(れ)ない(ない)から、住(す)めなくな(なくな)ること(こと)だ。カブトガニ(かに)のすみか(か)は、海(うみ)辺(べ)の波(なみ)が静(しず)か(か)で遠(とほ)浅(あ)にな(な)って(て)いる(いる)干潟(ひがた)が適(てき)している(い)る。四(よ)つ目(め)は、鋭(すまじ)いとげ(げ)をもち(もち)、そのとげ(とげ)で網(あみ)を切(き)っ(て)しま(ま)う(う)ので、昔(むかし)は漁師(りやうし)に干(ほ)され(れ)、畑(ひりょう)の肥(ひ)料(りょう)にさ(さ)れて(て)いた(いた)そう(そう)だ。

今(いま)では、かわい(わい)そ(そ)う(う)だ(だ)から、研(けん)究(きゅう)室(しつ)の横(よこ)の実験(じっけん)池(い)で大(お)切(き)に飼(か)われ(れ)て(て)い(い)る(る)。



神島水道の地図

### 魔法の血液

(五年 田中宏樹)

カブトガニ(かに)の血(ち)液(えき)は青(あお)い(い)そう(そう)だ(だ)。アメリ(あ)リ(り)カ(か)で(で)は、カブトガニ(かに)をバ(バ)ンド(んど)でしめ血(ち)液(えき)の三(さん)分(ぶん)の一(いち)を採(と)って海(うみ)に帰(かへ)して(して)い(い)る(る)。

カブトガニ(かに)の血(ち)液(えき)は、人(ひと)の生(せい)命(めい)を奪(うば)う(う)とも(とも)こわ(わ)い(い)「下痢(げり)」や「食中毒(しょくちゅうどく)」な(な)ど(ど)の菌(きん)に反(はん)応(おう)す(す)。



血液を採る様子

る(る)そう(そう)だ(だ)。以(い)前(ぜん)は検(けん)査(さ)に大(おほ)変(へん)な時(とき)間(かん)が(が)か(か)っ(て)いた(いた)が、カブトガニ(かに)の血(ち)液(えき)を(を)使(つか)う(う)と約(やく)一(いち)時(じ)間(かん)で検(けん)査(さ)が(が)で(で)き(き)る(る)よ(よ)う(う)に(に)なり(なり)人(ひと)々(々)の命(いのち)が助(たす)か(か)つ(つ)て(て)い(い)る(る)。だ(だ)か(か)ら、カブトガニ(かに)は、私(わたし)達(たち)の命(いのち)を守(まも)つ(つ)て(て)い(い)る(る)ヒーロー(ヒーロー)だ(だ)とい(い)え(え)る(る)。

### カブトガニ博物館

(四年 岡本拓真)

世界(せかい)に一(いち)つ(つ)だ(だ)け(け)の(の)カブトガニ(かに)博(はく)物(ぶつ)館(くわん)は、笠岡市(かさおか)横(よこ)島(しま)に(に)あ(あ)る(る)。博(はく)物(ぶつ)館(くわん)の建(たて)物(ぶつ)を(を)外(あ)か(か)ら(ら)見(み)ると、カブトガニ(かに)そ(そ)つ(つ)くり(くり)の形(かたち)を(を)し(し)て(て)い(い)る(る)。中(なか)に(に)入(い)ると、生(せい)き(き)て(て)い(い)る(る)本(ほん)物(ぶつ)の(の)カブトガニ(かに)が(が)い(い)る(る)。



カブトガニ博物館

映(えい)像(ざう)やクイズ(クイズ)など(など)で(で)カブトガニ(かに)の歴(れき)史(し)や体(てい)につ(つ)いて(いて)楽(らく)しく知(し)る(る)こ(こ)と(と)が(が)で(で)き(き)る(る)。ま(ま)た、大(おほ)き(き)な(な)カブトガニ(かに)の模(も)型(がた)を(を)レ(レ)バ(バ)ー(ー)で操(そう)作(さく)して(して)足(あし)や尾(お)を(を)動(うご)かし、体(てい)のし(し)く(く)み(み)につ(つ)いて(いて)詳(くわ)しく調(しら)べ(べ)る(る)こ(こ)と(と)も(も)で(で)き(き)る(る)。

そ(そ)して、公(こう)園(えん)の恐(きょう)竜(りゅう)達(たち)は(は)大(おほ)き(き)く(く)て(て)迫(は)り(り)が(が)あ(あ)り(り)、今(いま)にも動(うご)き(き)だ(だ)し(し)そう(そう)だ(だ)。



(五年 森兼 惇)